

海外自治体幹部交流協力セミナー2022（ロンドン事務所管内） 事業概要

1 テーマ

鹿児島県におけるカーボンニュートラルの取組について

2 海外参加者数：9名

Daniella Davila Aquije	ダニエラ・ダビラ・アキーヘ	団長
担当マネージャー、ビルディングセーフティ、グレーター・ロンドン・オーソリティ		
Will Mapplebeck	ウィル・マップルベック	団長
担当マネージャー、広報活動、コアシティーズ・ユーカー		
Vicky Wise	ビッキー・ワイズ	団長
主任、レジャー・文化、ホーシャム・ディストリクト・カOUNシル		
Lucy Clothier	ルーシー・クロージア	
会計マネージャー、副課151担当官、ストラウド・ディストリクト・カOUNシル		
Martin George	マーティン・ジョージ	
副編集長、ローカル・ガバメント・クロニクル		
Ian Hughes	イアン・ヒューズ	
政策部長、ローカル・ガバメント・アソシエーション		
Nabeel Khan	ナビール・カーン	
部長、経済・文化・スキル、ロンドン・ランベス区		
Jonathan Lloyd	ジョナサン・ロイド	
共同部長、戦略・洞察・コミュニティ、ウォルサム・フォレスト・カOUNシル		
Jason Strelitz	ジェーソン・ストレリッツ	
共同部長（臨時）、成人健康		
部長、公衆衛生、ロンドン・ニューアム区		

3 日程〔2023年1月15日（日）～21日（土）〕

月日	予定	宿泊地
1/15(日)	・参加者来日、オリエンテーション	東京都
1/16(月)	・東京セミナー（日本の地方自治講義、都内施設視察） ・クレア主催歓迎レセプション	東京都
1/17(火)	・受入団体（鹿児島県）へ移動 ・地方交流事業（鹿児島県知事表敬、概要説明、県内施設視察）	鹿児島県

	・鹿児島県主催歓迎夕食会	
1/18(水)	・地方交流事業（視察）	鹿児島県
1/19(木)	・地方交流事業（視察） ・クレア主催帰国前夕食会	鹿児島県
1/20(金)	・東京都へ移動 ・自由行動	鹿児島県
1/21(土)	・参加者帰国	—

4 実施内容

《東京セミナー：1月15日（日）～1月16日（月）》

（1）日本の地方自治に関する講義（明治大学教授 木村俊介）

鹿児島県訪問前に、参加者の日本の地方自治に関する理解促進を図るため、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科の木村俊介教授による講義を赤坂エクセルホテル東急で開催した。木村教授から地方自治体の基本構造や役割について、日本と英国を比較しながら説明していただいたことで、日本の地方自治体を取り巻く現状について理解を深めた。



（2）国会議事堂の視察及び東京タワー

午前中に行われた地方自治講義の終了後、日本国の国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関である国会議事堂を訪問。参議院本会議場等を案内しながら、英語の音声案内による概要説明を受け、建物自体の歴史や構造的な特徴、国会の構成、国会の権限及び議院権能について理解を深めた。



（3）港区役所（環境リサイクル部環境課）講義受講「二酸化炭素軽減の取組について」

東京都港区では、区有施設全てが再生可能エネルギーで賄われており、2050年までにカーボンニュートラルを目差していることから、今セミナー中に訪問を決定。参加者は東京都と区の役割の特徴、概要説明及び港区独自の再生可能エネルギーの取組について講義を受講後、活発な意見交換を行った。

参加者からは「再生可能木材の確保及び火災の危険性について」など、多くの質問があった。



(4) CLAIR 主催歓迎夕食会

CLAIR が主催する歓迎夕食会を赤坂エクセルホテル東急で開催した。参加者の出身自治体やセミナーテーマについて忌憚のない意見交換や記念品の交換を行うなど、親睦を深めた。

《鹿児島県セミナー：1月17日（火）～1月20日（金）》

(1) 鹿児島県政策概要説明

まず、鹿児島県庁にて地球温暖化対策室から地球温暖化の対策についての説明に続き、森林経営課やエネルギー対策課からの概要説明及びカーボンニュートラルの取組について説明を受けた。中でも「エネルギー節約機器等の助成金制度」や、「博覧会を通じてカーボンニュートラルの促進を図る」取組に対して参加者が関心を持ち、「日本の地方自治体制度があるからこそできる素晴らしい施策だ」と声を挙げた。



(2) 鹿児島県知事表敬訪問

鹿児島県の視察受入について謝意を伝えるため、塩田知事へ表敬訪問に伺った。鹿児島県知事による参加者への温かな歓迎のお言葉や鹿児島県とイギリスを結ぶ歴史についての説明のあと、記念品の交換を行い、両国の自治体にとって有意義なセミナーとなるように意見交換を行った。



(3) 新南部清掃工場の視察

鹿児島県で最初の視察先として、新南部清掃工場を訪問した。同工場は、ごみ焼却時に生じる熱を利用し高効率発電、そして生ごみを活用するバイオガスを兼ね備えた施設。概要説明を受けたあと、実際に案内いただきながら上記施設の仕組みの説明があった。

参加者からは、「生ごみや燃えるゴミの分別は施設内で行っているか」の質問や、「日本の家庭が細かく決められている分別制度を守っていることに感心した」との意見等があった。



(3) 鹿児島県主催歓迎夕食会

鹿児島県が主催する歓迎夕食会が市内飲食店で開催された。同日実施された事業説明に関する事項を中心として、幅広く質問が出る一方で、鹿児島県職員とも和やかに歓談するなど、親睦を深めた。

(4) セツ島バイオマスパワー合同会社の視察

鹿児島県内最大のバイオマス発電所であるセツ島バイオマスパワーからは、(CFB) ボイラに PKS や木質チップなどの燃料を用いてバイオマス発電を行っている仕組みについて説明いただいたほか、発電所内も視察を行った。

参加者からは、「燃料源である木質チップをどのように調達しているのか」、「バイオマス発電の排煙口から出る煙は住民に影響はないのか」との意見等があった。



(5) 九州電力山川発電所の視察

九州電力の山川発電所は地熱を利用し発電をしている施設であり、バイナリー発電所も備えている。地熱発電及びバイナリー発電の仕組みや過程、発電所の建設方法や県内に電気を安定的に供給するため、同県と連携して発電に取り組んでいる状況について説明いただいたほか、地熱発電所全体も視察を行った。

参加者からは、「地熱発電所が海沿いの平地に位置していることに驚いた」、「発電に必要な熱量が残っていない蒸気が無料で農業の温室、入浴施設等に供給され、発電されたエネルギーが余ることなく活用されていることが印象的だった」との意見等があった。



(6) 白谷雲水峡 + ヤクスギランド (屋久島)

ヤクスギが多く佇む白谷雲水峡は、標高 600m から 1200m の間に位置する自然公園であり、ユネスコ自然世界遺産としても登録されている。散策コースを進みながらガイドによる自然保護の取組や、屋久島の歴史について説明があった。

参加者は、屋久島の圧巻な大自然に魅了され、癒される様子が伺えた。



(7) 屋久島電工株式会社

白谷雲水峡に続き、屋久島電工株式会社を訪問した。同社は屋久島の地質的特徴及び気候を最大限に活用し、水力発電を運営している。標高の落差と全国一位の平均年間雨量があることから水力発電に適している地域であり、その発電されたエネルギーで同施設をはじめ、屋久島全ての施設及び民家が賄っており、鹿児島県の再生可能エネルギー促進に大きく貢献している。

概要説明を受けたあと、参加者との活発な質疑応答が行われ、「災害のリスクについて」や、「少雨量時の対策について」の質問があり、「地形の特徴を活かした屋久島ならではの素晴らしい施設だ」との意見も挙がった。



(8) 屋久島町役場

鹿児島県の行程の最後の視察先として、屋久島町役場を訪問した。2019年に建築され、屋久島さんの木材がふんだんに使用され、地域の自然への影響を抑えつつ、溶け込む町役場となった。建築や地域の資源、屋久島の歴史の説明を受けたあと、案内をいただくとともに、行政サービス等についての紹介があった。

参加者からは、「木のぬくもりを感じられる素敵な町役場」や、「美的だけでなく、イベント開催を通じて地域住民のコミュニティーセンターの役割も果たしている」などの声があった。



(9) 意見交換会（屋久島町役場にてオンライン形式）

地方交流事業の総括のため、事業所管の鹿児島県幹部に参加いただき、屋久島町役場からオンライン形式にて参加者の視察結果について鹿児島県庁と意見交換を行った。

参加者からは、「鹿児島県特有の立地を生かした発電によって県内全体への電力供給に努めている点は非常に参考になった」「森林の保護や管理、そして海拔在の活用の取組全体を真似ることはできないが、創意工夫を重ねている点が印象的だった」、「才能ある若者に留まってもらう取組については共感できた」との意見等があった。



(10) CLAIR 主催帰国前夕食会

CLAIR が主催する帰国前食会を市内の飲食店で開催した。

鹿児島県滞在の最終日ということもあり、視察に関すること以外にもお互いの文化等について交流するなど、和やかな雰囲気のもとで地方交流事業が締めくくられた。

以上